「やまがた道の駅ビジョン2020」〔概要①〕

～～ よってホッと、めぐってグッド！ 『やまがた』見つかる未知の駅 ～～

平成28年 3月28日
県 土 整 備 部

現状と特徴・課題

配置

- 駅の数が少なく、配置の地域差がある
- 一体型が少ない
- 幹線国道に集中している

基本3機能

休憩機能

トイレ
洋式化・多機能化への対応が遅れている
（洋式化率：男子49%、女子48%）

電気自動車（EV）用急速充電設備
全ての駅に完備
（「道の駅」における都道府県別設置率 全国1位）

車中泊専用エリア（RVパーク）
全ての駅で車中泊利用の実態が確認されているが、対応している駅は少ない（1駅のみ）

情報発信機能

無料公衆無線LAN（Wi-Fi）
インバウンド（訪日外国人旅行者）対応の基本となる無料Wi-Fiの環境整備に開きがある（過半数の駅で未整備）

道路情報提供
県管理道路等に面した駅では、情報が近傍道路の内容に限られ、峠道の路面凍結等の冬季の情報提供が不十分

地域連携機能

産地直売所（産直）
地元農産品に品薄が生じることや伝統野菜の取扱に差がある

物品販売（物販）
地元特産品・加工品の取扱状況に差がある

観光
広域的な観光案内や情報更新の頻度が駅により差があり、観光案内所の場所のわかりにくさや、パンフレット等の配置が整理されていないなど、情報を入手しにくい面がある
（JNTO（日本政府観光局）認定の外国人観光案内所は2駅）

骨子案に対するみちづくり評議会からの意見

その他の機能① 防災機能
18駅のうち10駅が市町村地域防災計画に位置付けられているが、防災設備や備蓄が十分ではない状況がある

その他の機能② 機能の多様化
他県では、特に地方部において複数の生活サービスを集約して提供する「小さな拠点」や、学習機能、創作・体験機能等、プラスαの機能を併せ持つ「道の駅」が増えてきている

やまがた道の駅ビジョンの基本的考え方

基本目標

本県の高速道路整備率が８割となり、東京オリンピックが開催される2020年代初頭までに、山形らしい魅力ある「やまがた道の駅」を現在の18駅から30駅程度に増やし、活用することにより、観光振興、地域の産業振興等による『やまがた創生』に資する。

「やまがた道の駅」の配置や考え方

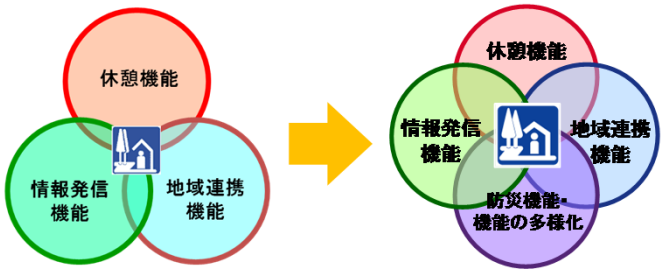
「やまがた道の駅」の新設や移設に当たっては、主に次の事項に考慮して配置を検討する。

1） 地域間のバランスをとること
2） 高速道路等からのアクセスがいいこと
3） 他の「道の駅」や類似の施設から一定の間隔を保つこと

「やまがた道の駅」が目指すべき将来像（ビジョン）

山形らしい魅力ある「やまがた道の駅」が、2020年代初頭までに目指すべき将来像（ビジョン）は次の5つであり、これらを実現することにより、**まず寄ってもらい、次に巡ってもらう**ための**地域に根付いた**「道の駅」になることを目指す。

1） 「山形らしい」基本機能を有する「道の駅」
2） 各々が独自性を持つ「道の駅」
3） 互いに連携する「道の駅」
4） 誰もが行きやすい「道の駅」
5） 誰もが参加できる「道の駅」



基本3機能　　基本3機能 プラスα

「山形らしい」基本機能

基本3機能

ひとにもくるまにも優しい休憩機能

お年寄り、子供・赤ちゃん、外国人など全ての利用者にとって快適なトイレ環境を整える。
また、電気自動車を安心して利用できるように、EV用急速充電設備を完備する。
さらに、車中泊の需要が見込まれる「道の駅」については車中泊専用エリア（RVパーク）を整備し、ごみ投棄や電気の無断使用などの問題を解決する。

【主な施策目標】 トイレの洋式化・多機能化 目標：3駅→全駅
EV用急速充電設備の整備 目標：全駅→全駅
車中泊専用エリア（RVパーク）の整備 目標：1駅→10駅

初めて日本、やまがたを訪れる人を助ける情報発信機能

インバウンド対応として、訪日外国人旅行者が無料でインターネットにアクセスし、必要な情報を取得できるようにするとともに、施設の案内表示の多言語化及び記号（ピクト）表示化を進める。また、土地勘がなく、特に雪国での運転に不慣れな旅行者に対して、豪雨・雪崩等による通行止めや、路面凍結・地吹雪等に関する情報を迅速に提供することにより、安心して運転できるようにする。

【主な施策目標】 Wi-Fi環境の整備 目標：9駅→全駅
通行止め・路面凍結等の情報提供 目標：9駅→全駅

やまがたを発信し、新たな仕事を生む地域連携機能

山形の最大の強みである「食」を提供するため、伝統野菜等、各地域ならではの食材を出品するとともに、「道の駅丼」やオリジナルのジュース・スイーツなど共通して取り組むテーマを設定し、各駅が独自商品を開発・提供していく。

【主な施策目標】 伝統野菜の出品 目標：3駅→10駅
地域食材を使ったメニューの提供 目標：12駅→全駅

県産品や6次産業化によって新たに生産される商品を県外客に提供する地域アンテナショップを兼ねた物販を展開する。また、県産農産物等を使用した人気が高い土産品（菓子）の県内製造割合が低いことから、その割合を増やす。

【主な施策目標】 物販における県産品の割合 目標：全駅で県産品（菓子）5割超

全ての「道の駅」において観光案内所を設置し、全県の観光案内を分担して行うことにより、観光拠点としての「道の駅」の地位を確立し、旅行者が必ず立ち寄るようにする。
また、ゲートウェイやインバウンド観光の拠点となる「道の駅」では、広域案内や外国人向け案内を実施する。

【主な施策目標】 観光案内所の整備 目標：10駅→全駅

以上の取組みの他、「道の駅」を“地域を知る学びの場”として捉え、地域の歴史、文化、産業等に関する情報を積極的に発信する。

プラスα機能

いざという時、頼りになる防災機能

山形県強靭化計画においても、「道の駅」の防災拠点化を推進していくこととしており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」については、その役割を確実に発揮できるよう、必要な防災設備等を整備する。

【主な施策の例】
■避難所の例： 災害用トイレ・自家発電装置等の整備、毛布・食料等の備蓄
■防災拠点の例： 耐震貯水槽、ヘリポート（防災対応離着陸場）等の整備

機能の多様化 ～『やまがた創生』に資する独自の取組みの展開～

上記4機能に関わるもの以外で、県が策定した『やまがた創生総合戦略』や各市町村が策定した『地方創生総合戦略』に位置付けられた施策を実施する場として、例えば主として地域福祉の向上等に資する地域センター型の「道の駅」等の整備を推奨する。

【取組みの例】 “アグリランド構想”、“小さな拠点の整備”などへの「道の駅」の活用

「やまがた道の駅ビジョン2020」〔概要②〕

～～ よってホッと、めぐってグッド！ 『やまがた』見つかる未知の駅 ～～

平成28年 3月28日
県 土 整 備 部

基本目標及びビジョン達成に向けた方策と関係機関の役割

（1）新たな「道の駅」の整備促進策

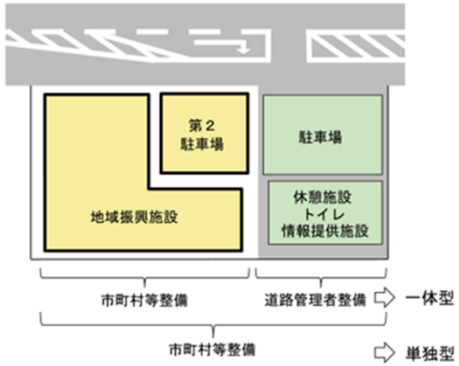
1）一体型による「道の駅」の整備促進

特に、無料の高速道路のIC近傍型又は本線直結型などで、広域観光の拠点となる「道の駅」に該当する場合については、設置者である市町村等と、道路管理者である国土交通省、県との間で調整を行い、‘一体型’の整備手法を検討することにより、新設または移設による新たな「道の駅」の整備を促進する。

2）既存ストックを活用した「道の駅」の整備

新たな「道の駅」を計画する場合、市町村が現に所有する施設を取り込むなど、既存ストックを活用することも一つの方法として考えられる。

【例】「道の駅」庄内みかわ(公共温泉施設)、「道の駅」天童温泉(民間産直施設)



（2）「やまがた道の駅」整備のための財政支援（別紙）

（3）市町村等における「道の駅」の構想から運営まで

構想段階（全体構想計画）

新たな「道の駅」を計画する場合、設置者である市町村等は、本ビジョンに基づき、①「道の駅」の整備位置、②「山形らしい」基本機能の整備方針、③当該「道の駅」の独自性等を明確化することが必要である。

また、必要に応じ、「道の駅」が接する道路の道路管理者と相談して、一体型か単独型かのどちらの手法で整備するかを決定する。

計画段階（事業計画）

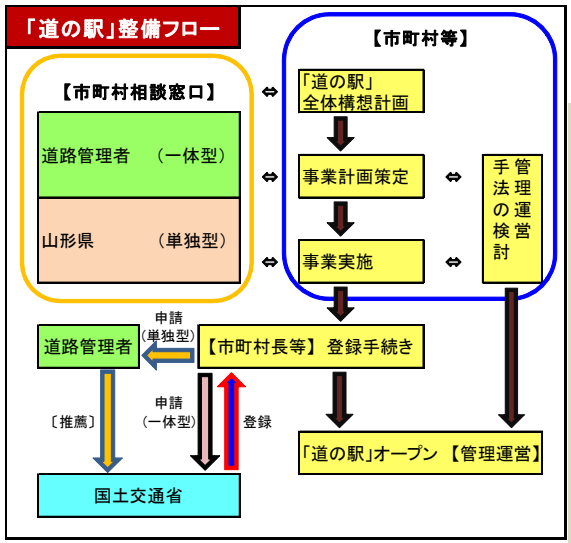
市町村等は、「道の駅」の基本設計、整備スケジュール、事業費等をまとめた事業計画を策定する。この場合、管理運営体制を想定した上で、関係機関との連絡協議会を設置し、必要に応じ、駅長の公募を行うなど、運営側の意向を事業計画の策定段階から反映していくことが重要である。

整備段階（事業実施）

市町村等は、適用可能な政府や県の支援事業を活用し、上記の事業計画に基づいた実施設計を行い、施設の整備を進める。

登録手続き

市町村長等は、国土交通省道路局長へ登録申請書を提出する。
（単独型の場合は、道路管理者の推薦が必要）



運営段階（管理運営）

市町村等は、駅長はじめ、管理運営者とともに、当該「道の駅」の独創性に磨きをかける一方で、他の「道の駅」とも連携することにより、年間を通じ、地域に根付いた安定した経営に努める。

【市町村等の関与】 建設部局だけでなく、企画、福祉、商工、農林など幅広い関係部門が「道の駅」の運営に携わっていくことが重要である。
また、運営を委託した場合、設置者である市町村の意向で経営方針や施設運営の決定スピードが遅くならないよう配慮する。

【駅長の選任】 駅長は、リスク管理ができて、商売というものを分かっている人を選任することが重要である。

【住民参加】「道の駅」を地域住民の雇用の場だけでなく、誰もが気軽に産直への出品や情報提供などを行う事ができ、企画運営へも参加できる仕組みを検討することが必要である。

（4）山形「道の駅」連絡会等による連携施策と市町村支援

1）山形「道の駅」連絡会の役割

（ⅰ）「やまがた道の駅」のブランド化のための企画・実施と情報発信

●「やまがた道の駅」ポスターの作成 ●やまがた「道の駅」の日を制定

●「道の駅」丼、オリジナルジュース、各「道の駅」でイベントを同時開催 など

（ⅱ）市町村相談窓口の設置

山形「道の駅」連絡会事務局に「市町村相談窓口」を設置する。

原則として、一体型は道路管理者が、単独型は山形県が窓口となる。

2）山形県の役割

（ⅰ）『やまがた「道の駅」車旅(しゃたび)案内』を活用した情報発信

山形県と(株)ゼンリンとの連携協定に基づいて、わかりやすいドライブマップが掲載された）『やまがた「道の駅」車旅案内』を年2回発行し、「道の駅」関連のイベント情報などを広く提供していく。

（ⅱ）産直、観光案内所、ドライブイン等との連携

「道の駅」と同様の休憩機能及び他の機能をもち、「道の駅」との協働により、地域活性化に資する産直施設、観光案内所、ドライブイン等との連携を段階的に広げるとともに、『やまがた「道の駅」車旅案内』等で紹介する。

（5）道路管理者による案内標識の整備

「やまがた道の駅」は、「休憩施設」としてだけではなく「観光拠点」としての役割も大きいため、道路管理者は、より積極的かつ確実に「道の駅」までの案内・誘導を行うために必要な案内標識の設置や表示内容の見直し等を行う。

（ⅰ）一般道路における案内標識

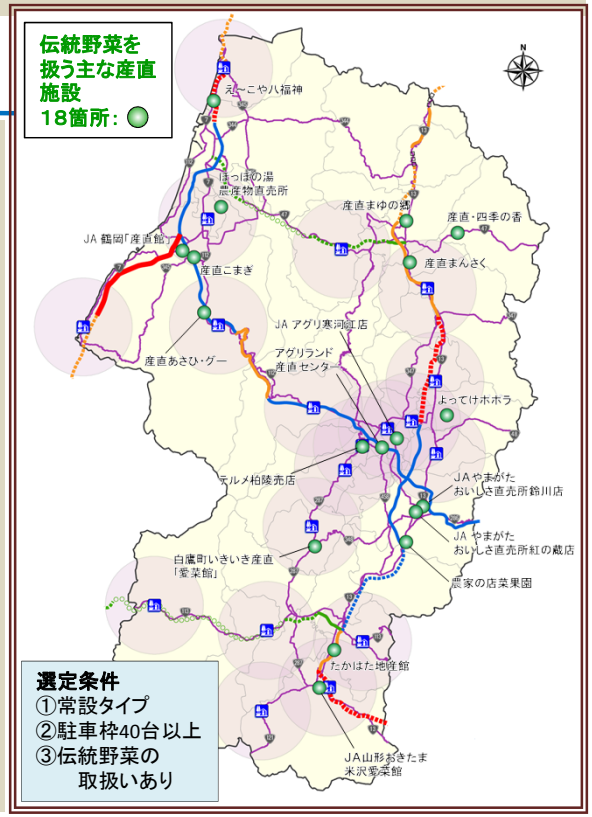
(a)「道の駅」に接する道路では、2km、500m、入口で案内を行う。必要に応じ、交差する主要幹線道路で案内を行う。

(b)高速道路等のIC間において並行する一般道路に設置された「道の駅」については、IC手前からの案内に努める。

(c)高速道路等のIC出口（下りランプと一般道路との交差点）から道のりで概ね5km以内にある最寄りの「道の駅」の案内に努める。

（ⅱ）無料高速道路等の本線上における案内標識

無料高速道路等のIC出口から概ね1km以内に「道の駅」がある場合は、無料高速道路等の本線上の必要な箇所に案内標識を設置する。



（別紙）

■政府の支援

「道の駅」の支援制度

黒字：対象施設・設備等
赤字：支援制度〔旧制度〕

調査・検討
国土政策局　官民連携基盤整備推進事業費

道路区域（道路関連施設）

EV
EV充電器
道路占用手続き
経済産業省
電気自動車・PHVの充電インフラ整備事業費補助金

駐車場
国土交通省
直轄道路事業（交通安全）
社会資本整備総合交付金（道路）

トイレ
耐震化、多目的トイレ・オストメイト対応

休憩施設・情報提供施設
無料公衆無線LAN等
国土交通省
直轄道路事業（交通安全）
社会資本整備総合交付金（道路）
防災・安全交付金（道路）

防災設備
非常用電源設備、簡易トイレなど
国土交通省
直轄道路事業（交通安全）
社会資本整備総合交付金（道路）
防災・安全交付金（道路）

総務省
地域経済循環創造事業交付金
過疎地域遊休施設再整備事業

道路管理者・観光庁の連携
・観光協会スタッフによる案内
・観光・道路情報を併せて表示

右折レーン設置・案内標識設置
国土交通省
直轄道路事業（交通安全）、社会資本整備総合交付金（道路）

公共交通バリア解消事業等
国土交通省
地域公共交通確保維持改善事業

農産物加工販売施設等
農林水産省
農山漁村振興交付金
〔都市農村共生・対流総合対策交付金〕

農林水産物処理加工施設等
農林水産省
農山漁村振興交付金
〔農山漁村活性化プロジェクト支援交付金〕
食料産業・6次産業化交付金
〔6次産業化ネットワーク活動交付金〕
農山漁村再生可能エネルギー法

国産水産物の加工流通等の機器設備の支援
水産庁
国産水産物流通促進・消費拡大総合対策事業
〔国産水産物流通促進事業〕

産地水産業強化支援
水産庁　産地水産業強化支援事業

離島の漁業生産・加工等の取組支援
水産庁　離島漁業再生支援交付金

太陽光パネル、街路灯等のLED照明など
環境省
二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金

農林水産省
農山漁村地域整備交付金

内閣府
地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金

福祉施設等
サービス付き高齢者向け住宅
国土交通省
社会資本整備総合交付金（住宅）

廃校舎など既存公共施設を活用した施設整備
国土政策局
集落活性化推進事業

石油製品安定確保のための地下タンク入替等
経済産業省
地域エネルギー供給拠点整備事業

都市再生整備計画に位置づけられたまちづくりに必要な施設
国土交通省
社会資本整備総合交付金（都市再生）

レクリエーション等施設（温泉、キャンプ場など）

レストラン等

資料：国土交通省『「道の駅」関係施策集（案）』より山形県県土整備部にて作成

■県の支援

平成30年　2月15日
県　土　整　備　部

「やまがた道の駅」緊急整備支援事業費

1　事業概要

平成２７年度に策定した「やまがた道の駅ビジョン2020」に基づき、「道の駅」の魅力アップを図るため、設置者（市町村）が行う施設整備への支援などを行う。

ビジョンにおける2020年代初頭までの目標

【基本目標】「道の駅」の数　⇒　18駅から30駅程度に
【主な取組み】山形らしい道の駅としての魅力アップ
・全駅でトイレを洋式化（高機能化）
・全駅で大型モニター等による道路情報等の提供
・全駅に観光案内所（観光案内スペース）を設置
・ＲＶパーク（車中泊専用スペース）の整備
⇒ 10駅を目標　　など

《整備イメージ》

2　事業内容

（H30）20,000千円

「やまがた道の駅」緊急整備支援事業費補助金

設置者である市町村が「やまがた道の駅ビジョン2020」に掲げる「山形らしい道の駅」を整備する場合に、県が補助金を交付する。

・事業期間　平成28年度～平成32年度（５年間）
・補助金額　事業期間内において１駅当たり5,000千円を上限
・補　助　率　補助対象①～③は１／２、　④及び⑤は１／３
・補助対象
①観光案内に関する施設整備
②通行止め、路面凍結等の情報機器の整備
③ＲＶパーク（車中泊専用スペース）の整備
④トイレの改修（既設駅のみ）
⑤防災設備の整備

補助を受ける上での必須要件（申請時点で未整備の場合）

H29実績
「道の駅たかはた」
道路情報提供装置の設置及びトイレの洋式化を支援

道路整備課 道路企画担当
TEL 023-630-2592